

くろしお協力隊に聞く 番外編

毎月掲載している「くろしお協力隊に聞く!」ですが、今月号は番外編の第3弾。元地域おこし協力隊の協力隊卒業後をインタビューしました。

たなか さとみ
田中 里美 さん

【協力隊任期】

平成28年4月～
平成31年3月



岡山県出身。協力隊期間中は、「集落活動センターであいの里蜷川」で同施設の運営などに携わりました。現在も集落支援員として活動しており、蜷川に加え「集落活動センター北郷」もサポートしています。(2021年3月末現在)

Q 卒業から2年が経過。現在はどんな活動をしていますか?

A 集落支援員として、「集落活動センター北郷」と「集落活動センターであいの里蜷川(以下、であいの里)」の活動のサポートを行っています(2021年3月末時点)。協力隊の頃は蜷川地区に住み、「スタッフの一員」のような形で皆さんと同じように活動をしていましたが、今は「陰ながらのサポート」といったイメージ。書類作成など、地域の皆さんが困っていることを解決できればと活動しています。

また、4月からは大方高校のサポートとして、町外から入学してくる生徒の受入れに協力させてもらう予定です。協力隊時代に培った蜷川でのスポーツ合宿の受入れを活かせるかもという思いと、町外からくる子どもたちに地域のことを伝えられたらという思いがあります。



Q 今後の目標や展望はありますか?

A 県内には61カ所の集落活動センターがありますが、黒潮町の集落活動センターがその見本になるような場所にしたいです。地域ならではの特色を活かしながら「中山間がここまでやれるのか」と思ってもらえるような、ちょっと一歩先を行くような、そんな活動ができればと思います。

元協力隊から一言! 黒潮町を輝ける町にしていきたいと思います!



スポーツ合宿受入れ再開に向け布団を干して準備

協力隊のその先へ

Vol. 1

町の活性化と自身の移住・定住を目指しながら活動している「地域おこし協力隊」。彼らは町のために活動をしながら、その地域で定住をしていけるよう各方面で活動をしています。協力隊の任期は3年。その後を見据えて活動を始める協力隊に注目する「応援連載企画」です。



じんの たつろう
神野 達朗さん

「サッカー人口の普及を目指して」

スポーツクラブ「Arcoracaon.S.C.」を開校

神野さんは小学1年生からサッカーを始め、社会人になってからは、「南国高知FC」、「高知ユナイテッドSC」で選手としてプレイ。現役引退後は、高知ユナイテッドSCの中学生チームの指導を務めました。この長年に渡るサッカー人生と、コーチとしての経験もある自身の能力を活かし、「黒潮町や幡多地域でのサッカー人口普及」を目指して、2021年4月、子どもたちのサッカースキルを高めるクラブを立ち上げることとなりました(開校は4月5日(月)からを予定。)



子どもたちに真剣に指導する神野さん

3月22日(月)からは体験教室を開催。初日は中学生を対象とした練習が土佐西南大規模公園人工芝グラウンドで行われ、町内外から約20人が参加。練習を通して身体や頭の使い方なども指導していました。参加した子どもたちは、「神野コーチの指導はわかりやすかった。また来たい」などと話しました。

神野さんは、「子どもたちが本気で遊んで、本気で楽しめるようになることで、もっとやりたいという意欲を育てられれば」と話しました。

〇お問い合わせ・申込み

☎080-3895-1114 ✉arcoracaon.s.c@gmail.com